

随筆春秋ライブラリー

本書はAmazonマーケットプレイスでもご購入いただけます。アマゾンのホームページで書名を検索していただくか、二次元コードをご利用ください。また、随筆春秋事務局からの直接購入も承っております。どうぞお気軽にお問い合わせください。

電話 03-3918-8500 メール ask@zhs.or.jp

随筆春秋第六十四号

二〇二五年秋号。第三十回随筆春秋年度賞五名の掲載と合わせ、会員一〇〇名弱のエッセイを載せました。

随筆春秋
2024年 第64号

第30回 随筆春秋年度賞掲載



定価 1,320円

読み応えある作品をお楽しみいただきながら表紙絵、とびら絵も鑑賞ください。



こんけんどうエッセイ集第8集 警視総監賞

近藤健著。向かいのマンションのベランダに不審な男を見つけた私は、事件と直

警視総監賞

定価 1,320円

感じ「あそこだ!」と叫び、部屋を飛び出した。



シニア少年

シニア少年



定価 1,650円

西澤貞雄著。日常の二コマをユーモラスに描き、何気ない生活を鮮やかに表現。多くの世代に楽しんでもらえるエッセイ集です。毎日の生活に彩りを添えてくれる、温かな話題の数々。



熊井禎臣短編小説集 一枚の絵葉書

一枚の絵葉書



定価 1,650円

熊井禎臣著。故斎藤信也氏の助言で小説を書き始め、その才能が開花。長年の随筆執筆により、深い情熱と才能が見いだされた作品です。



去りゆく昭和——昭和の語り部として——

去りゆく昭和



定価 1,650円

岩崎と志子著。何かと不安なことが多い日々、気がつくくと四捨五入すれば百歳。書きためたエッセイを一冊にまとめたことにしました。



随筆春秋 第五号



定価 880円

随筆春秋第5号復刊版です。第一回随筆春秋賞発表。年度賞発表。第4号からの題字は随筆春秋賞選考委員のおひとり早坂暁さんのご好意です。一氣に風格のある雑誌になりました。



随筆春秋 第四号



定価 880円

第一回随筆春秋賞中間発表リストを掲載。新「随筆春秋」第2号(旧号からの通算では第4号)の復刊版です。「随筆が好き」な人「書くことが好き」な人「のためのささやかな発表の場です。」



こんけんどうエッセイ集第7集 G



定価 1,320円

近藤健著。時の悲劇は診察にあり、医師や看護師の前で、日当たりのいい縁側で猫がのびをするような屈辱的な姿勢を強いられます。



こんけんどうエッセイ集第6集 妻の生還



定価 1,320円

近藤健著。精神疾患に苦しむ妻が繰り返す自傷行為。搬送先の病院での緊迫したやり取り。病の中で妻を取り戻そうとする葛藤を描く。



こんけんどうエッセイ集第5集 増穂の小貝



定価 1,320円

近藤健著。貝殻のお土産と「バスの中で食べなさい」とひと包みの握り飯を手渡された。私は下げた頭を上げることができなかった。



こんけんどうエッセイ集第4集 介錯人の末裔



定価 1,320円

近藤健著。元禄十六年の切腹の節は、御役目とはいえず貴殿の父上の首を……どうもすみません……。堀部安兵衛の子孫とのご対面。



随筆春秋 第五十三号



定価 1,200円

二〇二〇年春号。第二十五回随筆春秋賞が発表された節目の号です。書くことを楽しむ場として、新時代にふさわしい誌面づくりと、さらなる飛躍を誓った、大きな転機となる一冊です。



随筆春秋 第五十二号



定価 1,200円

二〇一九年秋号。紙面が一新されたことに合わせ、電子版でも読みやすさを追求しました。より読みやすくなりました。ぜひお楽しみください。



随筆春秋 第三号



定価 800円

現在のスタイルへとつながる装丁が定まり、新装版として発刊された第三号を復刊しました。顧問の先生方が巻頭を飾り、本誌が魅力あふれる雑誌として新たな一歩を踏み出した一冊です。



随筆春秋 第二号



定価 800円

発刊当時の装丁のまま復刊し、創刊から当号まで手作り感たっぷりの仕上がりを電子化しました。六十号を超える歩みの中に、本誌の原点ともいえる創刊当時の息遣いがよみかえります。



随筆春秋 創刊号



定価 800円

一九九三年三月に創刊された『随筆春秋』。当時の装丁を復刊し、文章やレイアウトは当時のまますべての文字を組み直し、より読みやすく仕上げました。その電子版をお届けします。



随筆春秋 第五十九号



定価 1,200円

二〇二三年春号。第二十八回随筆春秋賞と第三回佐藤愛子奨励賞を発表。受賞作と最終候補作を掲載。カット絵の挿入に工夫を凝らしながら、読みやすさと内容の充実を追求した一冊。



随筆春秋 第五十六号



定価 1,200円

二〇二一年秋号。創刊時一二名だった投稿者が一〇七名に。創刊三十年を目前に控え、本誌はエッセイや小説の刊行も重ねながら、同人誌として着実に歩みを力強く続けています。



随筆春秋 第五十八号



定価 1,200円

二〇二二年秋号。今号より年度賞作品の掲載を開始。創立以来、会員の会費のみで自主運営を行ってきました。書くことは救いです。生きていく傍らに、書くことを置いてみませんか。



随筆春秋 第五十五号



定価 1,200円

二〇二一年春号。第二十六回随筆春秋賞とともに、佐藤愛子奨励賞が新設されました。受賞作と最終候補作を通じて、評価される作品の姿が垣間見える、読み応えのある充実した一冊です。



随筆春秋 第五十七号



定価 1,200円

二〇二二年春号。書くことが好きな方が気軽に発表できる場として、作家への道の一步にもなり始めました。復刻号の刊行とあわせて、灯台のような存在をこれからも目指し続けてまいります。



随筆春秋 第五十四号



定価 1,200円

二〇二〇年秋号。紙面一新から三冊目となる号。すべての作品を一律に掲載し、執筆の楽しさが誌面いっっぱいに広がりました。読む楽しさもじつくり味わっていただける構成です。





こんけんどうエッセイ集第1集 祝電

定価 1,320円

近藤健著。弔電の束に金ピカの祝電が。前代未聞やな。タイガースが優勝を決めた夜、満を持して打った祝電が、爺さんの通夜に……。



こんけんどうエッセイ集第2集 風船の女の子

定価 1,320円

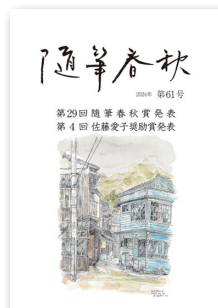
近藤健著。小学生だった女の子が十九歳になり、作者を訪ねて東京に。表題作、習塾の全国公開模試に全文が採用される。



こんけんどうエッセイ集第3集 昆布干しの夏

定価 1,320円

近藤健著。柔らかな生まれわたの朝の光が、海面でキラキラと……。生きていることが楽しくなる……。昆布干しに明け暮れる。



随筆春秋 第六十一号

定価 1,320円

二〇二四年春秋。第二十九回随筆春秋賞と第四回佐藤愛子奨励賞を発表。受賞作と最終候補作を掲載。表紙絵は六十号で山下先生が卒業され、今号から久保谷智子さんにお願いしました。



随筆春秋 第六十二号

定価 1,320円

二〇二四年春秋。第二十九回随筆春秋年度賞を掲載。新たな出発から二歩目の足跡を刻みました。地道な活動を通して、エッセイの境地を切り拓く随筆専門誌としての真髓を發揮します。



随筆春秋 第六十三号

定価 1,320円

二〇二五年春秋。第三十回随筆春秋賞・第五回佐藤愛子奨励賞を発表。受賞作と候補作を収録。全審査員満票で、六年ぶりに優秀賞が選ばれました。読み応えある作品の数々をお楽しみください。



随筆春秋 第六十号

随筆春秋
2020年 第60号

創立30周年記念号



定価 1,320円

二〇二三年秋号。創立三十周年記念号。年度賞作品とともに、佐藤愛子先生百寿のお祝いと当誌三十周年への祝辞を掲載させていただきました。

一〇〇号を目指しての第一歩です。



随筆春秋 第五十九号

随筆春秋
2020年 第59号

第28回随筆春秋賞発表
第3回佐藤愛子奨励賞発表



定価 1,320円

二〇二三年春号。紙面改良を重ね、さらに文字サイズを拡大。読みやすさを追求した一冊となりました。ページ数の増加にともない、カット絵は抑えつつも内容をより一層充実させました。



随筆春秋 第五十八号

随筆春秋
2020年 第58号



定価 1,320円

二〇二二年秋号。今号より創立以来、会員の会費のみで自主運営を行ってきました。書くことは救いです。生きていく傍らに、書くことを置いてみませんか。



随筆春秋 第五十七号

随筆春秋
2020年 第57号

第27回随筆春秋賞発表
第2回佐藤愛子奨励賞発表



定価 1,320円

二〇二二年春号。書くことが好きな方が気軽に発表できる場として、作家への道の一步にもなり始めました。復刻号の刊行とあわせて、灯台のような存在をこれからも目指し続けてまいります。



随筆春秋 第五十六号

随筆春秋
2020年 第56号



定価 1,320円

二〇二一年秋号。創刊時一二名だった投稿者が一〇七名に。創刊三十年を目前に控え、本誌はエッセイや小説の刊行も重ねながら、同人誌として着実に歩みを強く続けていきます。



随筆春秋 第五十五号

随筆春秋
2020年 第55号

第26回随筆春秋賞発表
第1回佐藤愛子奨励賞発表

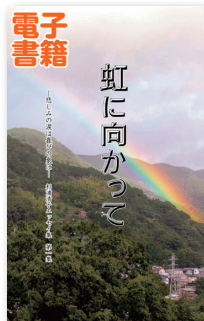


定価 1,320円

二〇二一年春号。第二十六回随筆春秋賞とともに、佐藤愛子奨励賞が新設されました。受賞作と最終候補作を通じて、評価される作品の姿が垣間見える、読み応えのある充実した一冊です。



虹に向かつて 悲しみの涙は喜びの泉に



定価 1,000円

杉浦清子著。私の全エネルギーを情熱を注いで築き上げた会社が消滅。私のこれまでの人生は、何だったのか。



ゴルビー長田作品集 泣いて笑って考えて…



定価 1,250円

ゴルビー長田著。三十年間新聞や週刊誌に採用された投稿文、短歌、川柳、コントを作品集にまとめました。



苦難の中に光あり



定価 250円

上條初枝著。大正の荒波に生まれ、裁縫で家族を支え、苦難の中でも希望を失わず、人の痛みに寄り添い励ました著者。その投稿文を編んだ一書。地域に尽くし、五人の母として生きた。



随筆春秋第六十二号



定価 1,200円

二〇二四年秋号。第二十九回随筆春秋年度賞を掲載。地道な活動を通して、エッセイの境地を切り拓く随筆専門誌としての真髄を發揮します。ゲスト欄の近藤健作品全文を掲載しました。



随筆春秋第六十一号



定価 1,200円

二〇二四年春号。第二十九回随筆春秋賞と第四回佐藤愛子奨励賞を発表。受賞作と最終候補作を掲載。表紙絵は六十号で山下先生が卒業され、今号から久保谷智子さんにお願いました。



随筆春秋第六十号



定価 1,200円

二〇二三年秋号。創立三十周年記念号。年度賞作品とともに、佐藤愛子先生百寿のお祝いと当誌三十周年への祝辞を掲載させていただきました。一〇〇号を目指しての第一歩です。



こんけんどうエッセイ集第6集 妻の生還



定価 1,200円

近藤健著。精神疾患に苦しむ妻が繰り返す自傷行為。搬送先の病院での緊迫したやり取り。病の中で妻を取り戻そうとする葛藤を描く。



こんけんどうエッセイ集第5集 増穂の小貝

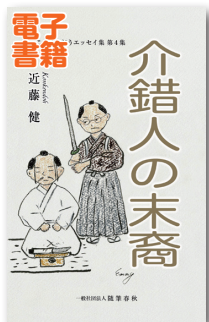


定価 1,200円

近藤健著。貝殻のお土産と「バスの中で食べなさい」とひと包みの握り飯を手渡された。私は下げた頭を上げることができなかった。



こんけんどうエッセイ集第4集 介錯人の末裔



定価 1,200円

近藤健著。元禄十六年の切腹の節は、御役目とはいえ貴殿の父上の首を……どうもすみません……。堀部安兵衛の子孫とのご対面。



こんけんどうエッセイ集第3集 昆布干しの夏



定価 1,200円

近藤健著。柔らかな生まれわたの朝の光が、海面でキラキラと……。生きていることが楽しくなる……。昆布干しに明け暮れる。



こんけんどうエッセイ集第2集 風船の女の子



定価 1,200円

近藤健著。小学生だった女の子が十九歳になり、作者を訪ねて東京に。表題作、習塾の全国公開模試に全文が採用される。



こんけんどうエッセイ集第1集 祝電



定価 1,200円

近藤健著。弔電の東に金ピカの祝電が。前代未聞やな。タイガースが優勝を決めた夜、満を持して打った祝電が、爺さんの通夜に……。



随筆春秋 第五十四号

随筆春秋 第54号



定価 1,320円

二〇二〇年秋号。紙面一新から三冊目となる号。すべての作品を一律に掲載し、執筆の楽しさが誌面いっばいに広がりました。読み楽しみもじつくり味わっていただける構成です。



随筆春秋 第五十三号

随筆春秋 第53号

第25回随筆春秋賞発表



定価 1,320円

二〇二〇年春号。第二十五回随筆春秋賞が発表された節目の号です。書くことを楽しむ場として、新時代にふさわしい誌面づくりと、さらなる飛躍を誓った、大きな転機となる一冊です。



随筆春秋 第五十二号

随筆春秋 第52号



定価 1,320円

二〇一九年秋に発行された第五十二号は紙面を一新し、新たな形でお届けしました。会員の皆様の作品は文字を大きくし、より読みやすくなっています。本号は在庫にも余裕がございます。



随筆春秋 第三号

随筆春秋 第3号



定価 880円

現在のスタイルへとつながる装丁が定まり、新装版として発刊された第三号を復刊しました。顧問の先生方が巻頭を飾り、本誌が魅力あふれる雑誌として新たな一歩を踏み出した一冊です。



随筆春秋 第二号

随筆春秋

1994.7 No. 2

定価 880円

発刊当時の装丁をそのままに、復刊しました。創刊号から当号までは、手作り感たっぷりの仕上がりです。現在、六十号を超える本誌ですが、創刊当時の息遣いがよみがえってきます。



随筆春秋 創刊号

随筆春秋

1993.3 No. 1

定価 880円

一九九三年三月に創刊された『随筆春秋』の創刊号を、当時の装丁そのままに復刊しました。文章やレイアウトは当時のままに、すべての文字を組み直し、より読みやすく仕上げられています。



随筆春秋ライブラリー 電子版

電子書籍版をご用意しました。パソコン、スマートフォン、または電子書籍専用端末でお読みいただけます。ご購入は、二次元コードの読み取り、またはアマゾンのサイトで書名を検索してください。

随筆春秋 第六十三号

二〇二五年春号。第三十回随筆春秋賞・第五回佐藤愛子奨励賞を発表。受賞作と候補作を収録。全審査員満票で、六年ぶりに優秀賞が選ばれました。読み応えある作品の数々をお楽しみください。



定価 1,200円



こんけんどうエッセイ集第7集 G

近藤健著。時の悲劇は診察にあり、医師や看護師の前で、日当たりのいい縁側で猫がのびをするような屈辱的な姿勢を強いられます。



定価 1,200円



シニア少年

西澤真雄著。日常のニコモをユーモラスに描き、何気ない生活を鮮やかに表現。様々な世代に楽しんでいただけの作品集です。日々の生活に彩りを添えてくれる、そんな温かな作品です。



定価 1,200円



熊井楨臣短編小説集 一枚の絵葉書

熊井楨臣著。故斎藤信也氏の助言で小説を書き始め、その才能が開花。長年の随筆執筆により、深い情熱と才能が見いだされた作品です。



定価 1,200円



去りゆく昭和——昭和の語り部として——

岩崎と志子著。何かと不安なことが多い日々、気がつくくと四捨五入すれば百歳。書きためたエッセイを一冊にまとめたことになりました。



定価 1,200円



イヨボヤ



定価 600円

崔宣葉著。短編小説集第二集。人生の中仕切り、女の花道、浦島太郎の故郷探訪。オーシャンブルーに続き、三つのショートストーリーをお届けします。



オーシャンブルー



定価 600円

崔宣葉著。短編小説集第一集。フルーツバスケット、心の扉、オーシャンブルー、珠玉の三つのショートストーリーをお届けします。



六月の優しい雨



定価 300円

崔宣葉著。短編小説。普通のテーマ、愛とは。十五年ぶりに再会した洋介と祥子。彼らを待ち受けていたのは過酷な現実だった。



下山を楽しむ



定価 700円

板東洋三郎著。ただ今下山中。楽しみながら下山中。山や日常の素朴な気づきを分かち合えたなら望外の幸せです。頂上も通過点、歩みの味わいを綴る。八年の全記録を一冊に収めます。



私の伯楽



定価 1,250円

濱本久子著。成果が伸びず迷う保険外交員の私に、凛とした女性支部長が仕事の誇りと粘りを授けた。厳しさで温かさに導かれ、営業の醍醐味に目覚め、迷いを越えて大きく成長していく。



昭和の日々 団塊の世代に贈るナオウム事件の意味するもの



定価 400円

柳田節著。昭和を生きた著者が、幼少期の記憶や流行を手がかりに、物質から心へ移る時代の転換点を丁寧に静かに深く見つめ直す。



随筆春秋 関連 リンクページ



随筆春秋 ホームページ
<https://zhs.or.jp>



随筆春秋 事務局 メールアドレス
ask@zhs.or.jp



Wikipedia 随筆春秋
<https://w.wiki/3vQ8>



Wikipedia 随筆春秋賞
<https://w.wiki/3fu6>



Wikipedia 佐藤愛子奨励賞
<https://w.wiki/58jy>